

通商産業政策史完成記念シンポジウム
「グローバル化と産業政策の転換」
パネルディスカッション資料

2013年1月29日（火）

石黒 憲彦
経済産業省経済産業政策局長

2000年代の経済産業政策と
今後の方向（個人の見解として）

平成25年1月29日

石黒 憲彦

2000年代の政策転換—3つの好循環を目指して

○長期的に需要が減退する産業やメガ企業でなければ世界で戦えない産業で全体で生産調整しては根本的な処方箋にならない。

○当時の問題は横並び主義と撤退コストの高さから大胆な経営改革と過剰供給構造はなかなか是正されず、経営資源が有効に活用されていなかったこと。一方で不良債権処理一辺倒では不況になるだけ。「不良債権処理と産業再生は車の両輪」

○「イノベーションと需要の好循環」形成のためには、利益率の高い(研究開発投資、設備投資余力に直結)強靱な産業群が必要。

→「イノベーションと需要の好循環」(マクロ)、「製造業の復活と事業向けサービス業を核とする産業構造の転換」(セミマクロ)を推進していくためには「産業構造調整」というより「企業構造調整」が鍵、具体的には「不採算部門からの撤退と新事業投資の促進」というミクロの経営改革を加速していく必要があった(産業活力再生法の目的)

→ROA等の基準を作って税制等で事業再編を支援

産業再編・企業再編による経済活性化について

経済の活性化
競争力の強化

不採算部門の
切り出しなどを支援

事業再構築と
産業再編

「国民経済レベルの
選択と集中」の
好循環

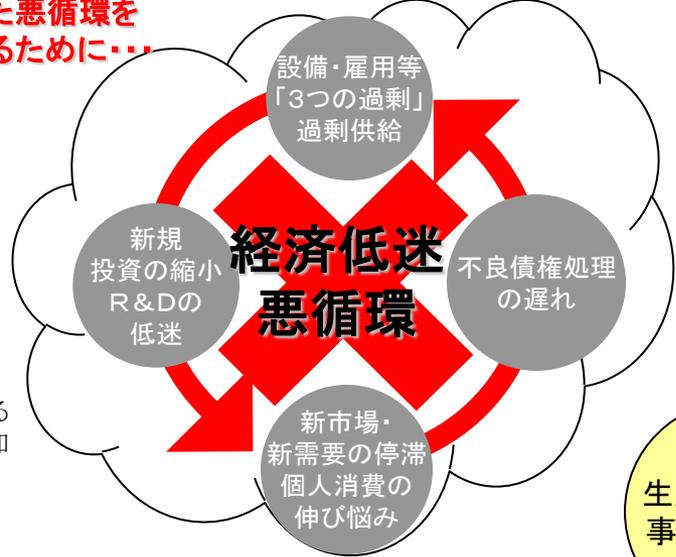
新事業開拓
スピンアウト

ミクロでの好循環

産業活力再生法を抜本的に強化し、ダイナミックな産業構造改革を実現する。

大企業がこれまで
抱えていた技術や雇用を維持

こうした悪循環を
断ち切るために...



ビジネス支援
サービスの
提供など

利益率の高い
製造業の復活

製造業・
サービス業の
好循環

生産性の高い
事業サービス

製造業に
抱え込まれた
人材と資本の移動

セミマクロでの好循環

競争力ある企業を伸ばし、競争力のない企業の退出を促すことで、製造業の競争力の強化を図る。

また、同時に、サービス経済化を進め、創業促進、労働移動の円滑化を図る。

マクロでの好循環

イノベーションと需要の好循環を形成し、我が国を高付加価値の拠点とする。

新市場の創出
消費拡大

個人消費の拡大による
企業収益の増加

(期待成長率が
高まり、投資や
雇用が拡大)

技術と市場の
好循環

イノベーション・
技術の進歩

新技術や新ビジネスモデルによる
潜在国内需要の喚起

産業政策に関する個人的見解

1. 政策目標

構造改革と円滑な構造調整→雇用創出と一人当たり国民所得の増大≒経済成長

2. ミクロの企業活動に対する働きかけがマクロの広がりを持つか？→市場との対話を通じて産業政策は「空気を換え流れをつくる」ことで市場機能にある種の増幅効果を与えられる

①アナウンスメント効果(ex.大学発ベンチャー1000社)

②呼び水効果(ex.エコポイント、エコカー補助金)

③お墨付き効果(ex.ものづくり中小企業300選)

④中立的第三者としての調整機能(ex.東日本大震災)

マイケル・ポーター氏「政府の立場として正しいのは、触媒であり挑戦者」(「競争戦略論」P32ダイヤモンド社)→産業政策の内容は時代とともに変化するのは必然

今後の産業政策の基本的方向

1. 課題解決型市場創造

新たなイノベーションと需要の好循環を形成して製造業の復活と付加価値の高いサービス産業の創出

- ①戦略的な研究開発促進と設備投資支援
- ②円滑な事業再構築と産業再編への環境整備
- ③規制改革とイノベーションシステムの改革
- ④ベンチャービジネスを創出するビジネス生態系の構築
- ⑤ブランド戦略、知財戦略→クールジャパン

2. 立地環境整備（法人税、物流インフラ等）

3. 雇用システムの改革（女性、高齢者、若者、学び直し等）

4. 東アジアの活力の活用（FTA、TPP）